－　奨学生座談会　－

＜はじめに＞

ホリプロ文化芸能財団の奨学金は、株式会社ホリプロ ファウンダー最高顧問である堀威夫により平成 26 年 4 月に設立された一般財団法人ホリプロ文化芸能財団が、次代のエンタテインメント分野での活躍を担う若い人材を育成し、我が国の文化・芸能の発展に役立ちたいという意志のもと新たにスタートした給付型奨学金制度です。

タレント・アーティストなどのマネージャーや、映画・音楽・番組などコンテンツに係わるプロデューサーなど、エンタテインメント業界に関わる仕事に就くことを目指す学生を支援することにより、文化芸能の発展と社会への貢献を果たすことを目的としています。

制度の詳細は、本年度の募集要項に記載していますが、概要は以下のとおりです。

- 月額 3 万円の給付型奨学金で、最長 2 年間の給付
- 奨学金の使途は、将来エンタテインメント業界で働くために必要な、専門知識や技術の習得、情報収集など、実践的な活動を行うために用いること
- 応募資格は、指定校 15 校に在籍し、将来、エンタテインメント業界に関わる仕事に就くことを目指している学生
- 応募は各指定校への提出で、平成 27 年 4 月 30 日（木）締切

第 2 期奨学生の募集にあたり、これから応募を検討している学生の皆さんにより良く理解して頂けるよう、第 1 期奨学生の中から３名に集まって頂き、奨学金の活用方法などについて、意見交換をして頂きました。

【奨学生座談会】

司会：本日は、３人の奨学生の方にお集まり頂きました。皆さん、こんにちは。

大崎・鹿島・和田：こんにちは。

司会：第１期の奨学生として半年が経過していますが、奨学金の活用方法などについて意見交換をしながら、これから応募を考えている学生の皆さんにとって、参考となる話が出来ればと思っていますので、よろしくお願いします。
では、早速ですが、皆さんが奨学金をどのように使ったのか、主な使い道から聞かせてください。

＜使い道＞

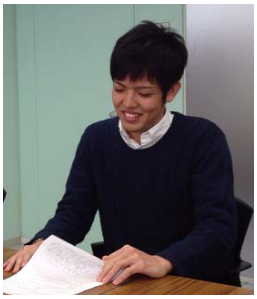
和田：僕は１０才頃まで北海道で、その後は石垣島で育ち、大学で東京にきました。石垣島の頃は、生のエンタテインメントに触れる機会がほとんどなかったので、今回頂いた奨学金は、主に、様々なライブを見る為に使わせて頂きました。

大崎：私は、もともと舞台に関心が高かったのですが、１回１万円近くかかることから、学生の立場ではなかなか行けず、残念に思っていました。奨学金を頂けたので、月に１回は舞台を見に行くことが出来ました。他には、ベトナムで水上人形劇を観たり、たくさんの映画や舞台を観る為に衛星放送に加入したり、というように使わせて頂きました。衛星放送では 40 本近い作品を観たので、かなり色々なジャンルの作品に接することが出来ました。

鹿島：一番大きな使い道は、アメリカでライブのエンタテインメントに触れたことです。ハリウッドのホテルでのショーや、アメリカのディズニーランドに行くことが出来ました。日本のディズニーランドとの比較という意味でも興味深い体験が出来ました。

和田：奨学金の使途は授業料以外ということはわかっていましたが、いざ自分が使うとなると、本当に自分が楽しむために使ってよいのか？ということは何度も自問しましたね。悩んだこともあります。これで良かったのでしょうか？（全員笑）

鹿島：その気持ちはわかります（笑）。私も同じように感じました。でも、大崎さんの衛星放送への加入というのは、いいですね。私は思いつきませんでしたが、なるほど、と思います。



和田：僕は、お二人の話を聞いていて、「海外に行くことも良かったかな」と感じました。せっかく頂ける奨学金ですし、しかも、どのように使うかは自由なので、もっと広い選択肢で考えてみても良かったのかもしれません。僕たちの使い方は、財団の方から見て如何ですか？　実は今でも不安があります。

司会：
皆さんの使い方は大丈夫です（笑）。
奨学金の趣旨は、将来、エンタテインメント業界の裏方で仕事をしてみたいと考えている学生の皆さんに、学生時代でなければ出来ない経験を積んでもらうことでした。ライブや舞台を観たり、海外のコンテンツに現地で接したり、画像編集のソフトを購入して映像制作を学んだりと、皆さんそれぞれの使い方をされているようですが、有効に活用されていると思います。

和田：安心しました（笑）。それでも、迷った時には事務局の方に相談させて頂きます。

司会：一つ補足すると、奨学金の使い道で「こういう用途はダメ」というルールを細かく作るつもりはありません。奨学金を活用する中で、エンタテインメント業界で働きたいという関心を高めて貰えれば良いと思っていますので、皆さん一人一人の意識次第という部分は大きいでしょう。
ところで、皆さんは、この奨学金をどうやって知ったのですか？

＜奨学金に申込んだきっかけ＞

鹿島：私は専門学校でマネージャーを目指すコースに在籍しているので、授業の中で先生が教えてくれました。

大崎：私は、大学が学生に向けて情報提供しているポータルサイトで知りましたが、メディア関係のゼミでは、ホリプロ文化芸能財団の奨学金について、こんな奨学金もありますと紹介があったケースも聞いています。これまで、奨学

金を受給することはそれほど考えていなかったので、大学からの情報提供で初めて知りました。

和田：僕も、学生向けの大学のポータルサイトで知りました。普段から奨学金についての情報はこまめにチェックするようにしていたので、最初は、面白い奨学金があるなあと感じました。

大崎：申込む前に親へ説明したのですが、将来の返済が必要な貸付型の奨学金と、給付型の奨学金の区別が、最初は上手に説明できなかったかもしれません。この奨学金は、給付型で返済は不要、しかも、学生時代に様々なことを経験出来るので、多くの人に活かしてもらえると良いですね。

司会：今後の奨学生募集の中で参考としていきます。貴重なご意見、ありがとうございました。
次に、これからの奨学金の使い道として、どのようなことを考えているか、聞かせて下さい。

＜今後の予定＞

鹿島：ライブのイベントには、これからも参加してみたいですね。私が参加したコンサートでは、ファンが振るペンライトの色が一斉に切り替わって、ファンの一体感が高まるような仕掛けがありました。演出にはとても興味があります。

大崎：参加者の一体感という意味では、私が参加したランニングのイベントでも、参加者全員へフェイスペインティングを施すような仕掛けがあり、とても楽しかったです。将来、楽しさを演出する側にまわって仕事をする時のために、色々なイベントに参加して学んでみたいと思います。

和田：奨学金を頂いたので、あるアーティストのファンクラブに入会しました。その最初のライブイベントに参加したら、いきなりバックステージを案内してもらえたり、アーティストにも内緒の逆サプライズイベントがあったりと、とても驚きました。ライブだからこその楽しさや一体感を生み出す演出を、是非学んでみたいですね。

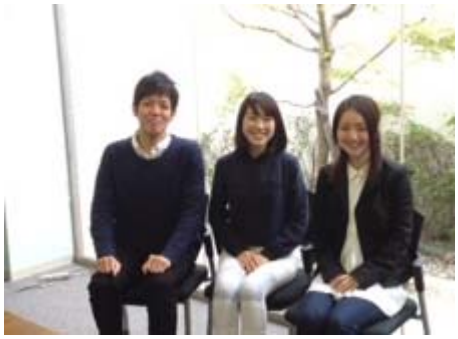
＜これから奨学金のエントリーを考えている学生さんへ＞

司会：最後に、第 2 期奨学生応募者へのメッセージをお願いします。

鹿島：私は、とても有意義な奨学金だと思います。エンタテインメント業界で働いてみたいという人には、全員へお薦めしたいですね。

和田：もともと、エンタテインメント業界に関心はありましたが、この奨学金の給付を受け、何に使うか考えている中で、自分のモチベーションというか関心がさらに高まってきたように感じます。

大崎：私も、奨学生に選ばれて給付を受けた後に、何に活用するか本当に様々な事を考え、そして経験することが出来ました。学生時代でなければ出来ない実践的な事へチャレンジする機会を得られることは、次の奨学生の皆さんにとっても素晴らしいことだと思います。



司会：皆さん、本日はありがとうございました。今後も有意義に奨学金を活用し、将来エンタテインメント業界で働く時のために、学生時代に出来る事を探しながら、頑張って下さい。